

鶴見区在宅医療連携拠点事業

つるみ在宅ケアネットワーク 第15回公開勉強会報告書

日時 令和1年11月16日(土) 13:30~16:30

場所 鶴見公会堂

13:30 開会の辞

鶴見区医師会 理事長代理 副理事長 佐藤 剛 医師



鶴見区役所 福祉保健センター長 花内 洋 氏



13:40 1部

基調講演

人生の最終段階をみんなで考えてみましょう

“そのとき 救急車をよびますか?”

講師：済生会横浜市東部病院 副院長・救命救急センター長 山崎 元靖 医師

・今日の目的

自分らしい最期を迎える

本人の意思に沿った最期を迎えるには、どうすれば良いか?

・質問：救急車を呼びますか?

1. 本人の意思…もしも手帳の紹介
2. 予期しているか…人生会議 (ACP) について
3. 救急車 (消防) の特性…消防とは? 救急隊の葛藤

・心肺蘇生に対する議論

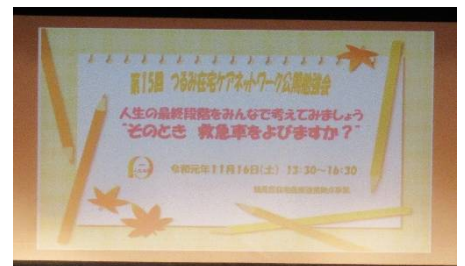
・蘇生処置に関する横浜市の現状

・救急医の悩み

・つるみ在宅ケアネットワーク連携ノートについて

・サルビアネットについて

・医療の意思決定



14:55 2部

シンポジストの発表

「人生会議って・・・」なに？

座長：渡辺医院 院長 渡辺 雄幸 医師

横浜市医療局 がん・疾病対策課 保下 真由美 氏

「人生会議って何？」～横浜市の取組について～

1. 「人生会議」について
2. 横浜市のデータ
3. 人生の最終段階における医療・ケアに関する横浜市の取り組み
(もしも手帳、看取りマップの紹介)



関東臨床宗教師会代表 井川 裕覚 氏

「死んだらどうなるの？」ときかれましたら ～臨床宗教師の立場から～

- ・臨床宗教師とは？
- ・臨床宗教師活動を通じた気づき・事例を用いて実際を紹介



恵愛内科クリニック 院長 佐藤 剛 医師

「人生会議って・・・」なに？

- ・理想の死に方、健康寿命
- ・リビングウィル、家族の想いと本人の想い、イエローノートを使用しての実際の事例紹介



つばさネット 会長 青木 善紀 氏

「人生会議って」なに？ 事例を通してケアマネの立場から

- ・事例紹介 2例
- ・自己選択できるように支援することの大切さ、揺れる気持ちへよりそいサポートする大切さ



15:40 シンポジウム開始

* 質問内容は議事録参照
事前質問から6問
会場より3題の質問



16:20 まとめ

座長：渡辺医院 院長 渡辺 雄幸 医師



シンポジウム終了後 皆さんから一言ずつ

保下氏：いろいろな先生が「もしも手帳」を話し合っていました。話をする機会として作ったものなので、それが絶対ではありません。

井川氏：本日感じたのは、どうやって看取っていくのか。やはり自分の大事な人をどう送りたいのか。思いやりのある社会になってほしい。

青木氏：人間は気持ちが揺れるので、方向性を決めても、変わることを理解して取り組んで頂きたいと思う。

渡辺先生：何を大切にしているか？ どうしてほしいか？ 信頼できる人や医療チームと話し合いを持ってほしい。年齢が若い時から、こう思うよということを家族と共有していただくと良い。気持ちも変わることもある。リビングウィルはその都度書き換えれば良い。書くことがゴールではなく、家族・医療者・介護者と相談を繰り返し行っていくことが大事。日常生活に沿って話をして頂きたい。

16：25 閉会の辞

鶴見区医師会 拠点担当医師 佐藤 忠昭 医師



出席者 269名
医師 7名 歯科医師 2名 薬剤師 2名 行政 12名
病院地域連携室 10名
地域包括支援センター6名
サービス事業者・その他 27名
一般 180名（事前予約 108名、当日 72名）
スタッフ 23名